入賞

「照葉のまちの香るロード」

企画者　アイランドシティ中央公園指定管理者　株式会社西鉄グリーン土木

博多湾を埋め立てた人工島の上に、一番最初にアイランドシティ中央公園はつくられました。今少しづつ街ができ始めています。

この人工島の緑化は照葉樹を基調にしています。シイ、タブなどの照葉をもつ雑木類が主役ですが、この公園の東南アプローチだけは、白いアーチがいくつもかけられていましたので、つるバラを植えて、沿道のアベリアをきちっと刈り込むとオシャレな散策路になりました。さらに香りの木を植えこんで、もっとこの公園を楽しんでもらいたいと思います。

一年中さわやかな香りを放つニオイヒバをベースに、春から初夏、この公園のもっとも美しい季節に、リンゴやバナナにはちみつと、なにかおいしそうな香りがふくいくと香る、不思議な「香るロード」を考えています。

実は、この公園は海上埋め立て地に特有の、植栽には厳しい環境下にあります。冬の乾寒風、夏の日照りと乾燥、埃や黄砂を含む潮風などに耐えられる樹種はそう多くはありません。いろいろと植えてみた中で、当初の緑化計画にはなかった針葉樹類はかなり成績が良いことがわかりました。ニオイヒバはこの公園で順調に育ってくれると見込んでいます。その間に交互に植えるカラタネオガタマも葉の厚い照葉樹なので、なんとか持ちこたえてくれるでしょう。ヒトツバタゴはこの近辺で成績の良い樹種で、春には満開になります。ユリノキははじめてですが、照葉でもあり、公園入口で出迎えの木として、アーチには既存のバラと競うようにクレマチス、ジャスミンを配しました。足元はニオイヒバの低木と、これもこの公園で良く育つ、ラベンダーの植込みです。

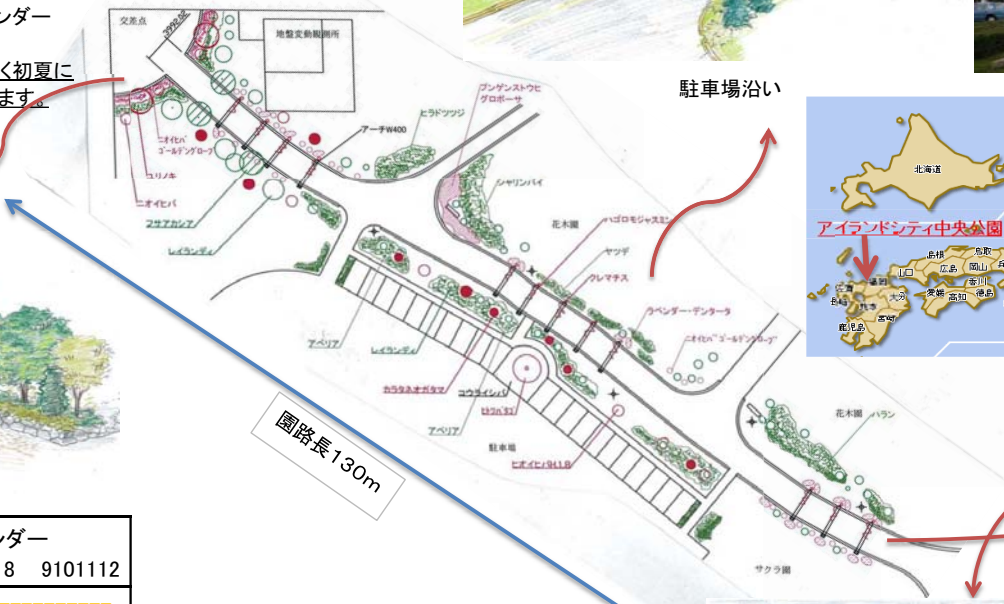
何年もかかりますが、いつかはこの街並みが博多の自慢となり、涼やかな海風の吹く初夏に訪れた人たちが、いいにおいのする街だったと記憶にとどめてもらえることを願っています。

現況

駐車場沿い

現況

公園東南入口



使用する植物一覧

種　　名	本数	どんな香り？（香る部位）	香りカレンダー 1 2 3 4　5 6 7 8　9 10 11 12
ニオイヒバ	7 本	レモンやミカン（葉）	
ユリノキ	2 〃	はちみつ（葉、花）	
カラタネオガタマ	9 〃	バナナ（花）	
ヒトツバタゴ	1 〃	山に咲く白い花(花)	
ﾆｵｲﾋﾊﾞ ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｸﾞﾛｰﾌﾞ	63 〃	レモンやミカン（葉）	
ﾌﾟﾝｹﾞﾝｽﾄｳﾋﾞ ｸﾞﾛﾎﾞｰｻﾞ	12 〃	レモンやミカン（葉）	
ハゴロモジャスミン	6 株	甘い誘惑の香り（花）	
クレマチス	6 〃	リンゴ（花）	
ラベンダー・デンタータ	57 〃	嗅げばわかる（葉、花）	

現況

歩いてみると・・・